

# ソチオリンピックを終えて



ソチオリンピック（現地時間2月7日～23日）は、冬の大会として史上最多の88の国と地域が参加し、熱戦が繰り広げられました。日本選手は長野大会に次ぐ8個のメダル（金1，銀4，銅3）を獲得し、多くの方々がテレビやラジオを通じて選手の活躍をご覧になったり、お聞きになったりしたと思います。NHKでは、各放送波やデータ放送、インターネットを使って、視聴者の期待に応えるべく、情報をきめ細かくお伝えしました。

## ■ 注目競技をできるだけ“生”で伝える

- ・総合テレビでは、ジャンプ男子ラージヒル、フィギュア女子フリー等、注目競技を生中継。
- ・当初の放送計画にはなかったカーリング女子の試合も臨機応変に編成し、生中継。

## ■ “見逃しゾーン”で視聴者の期待に応える

- ・日本時間深夜～未明に実施された注目競技を午前中に録画放送。
- ・視聴率は開会式22.3%。フィギュア男子フリー21.9%など（ビデオリサーチ社調べ）。

## ■ ハイブリッドキャスト

- ・放送中の番組を番組冒頭から視聴できる「巻き戻し再生サービス」を合計12番組で実施。（ショートトラック、カーリング女子の生中継など）
- ・利用者からは「ちょっと巻き戻して見るのに便利」、「日常的に使いたい」などの意見が寄せられた。

## ■ 8Kスーパーハイビジョン

- ・開閉会式、フィギュアスケートを8Kで制作。
- ・IBC（国際放送センター）で、延べ5000人以上の世界の放送関係者などに、超高精細映像と22.2マルチチャンネルの三次元音響を体感してもらった。
- ・国内でも3か所（東京・千葉・名古屋）でパブリックビューイングを実施。